

温かい人間関係を育む学級づくり

— 構成的グループ・エンカウンターを通して —

浦添市立神森小学校教諭 大濱裕子

目 次

| | | |
|-----|---------------------------------|----|
| I | テーマ設定の理由 | 1 |
| II | 研究目標 | 1 |
| III | 研究仮説 | 1 |
| | 1 基本仮説 | 1 |
| | 2 作業仮説 | 1 |
| IV | 研究内容 | 2 |
| | 1 学級経営と温かい人間関係 | 2 |
| | 2 温かい人間関係をつくる教師の基本姿勢 | 3 |
| | 3 人間関係づくりの体験学習『構成的グループ・エンカウンター』 | 3 |
| V | 指導の実際 | 4 |
| | 1 題材名 | 4 |
| | 2 指導目標 | 4 |
| | 3 題材について | 4 |
| | 4 検証指導の実際 | 5 |
| | 5 公開検証授業 | 11 |
| VI | 実践の検証 | 14 |
| | 1 学級全体の変容について | 14 |
| | 2 抽出児の変容について | 15 |
| VII | 研究の成果と課題 | 16 |
| | 1 研究の成果 | 16 |
| | 2 今後の課題 | 16 |
| | おわりに | 16 |
| | 主な引用文献・参考文献 | 16 |

温かい人間関係を育む学級づくり

— 構成的グループ・エンカウンターを通して —

浦添市立神森小学校教諭 大濱裕子

【要約】

この研究は、構成的グループ・エンカウンターの実践を通して、温かい人間関係を育む学級づくりを行う方法を探求しようとするものである。

ソシオメトリック・テストやアンケートを行い、学級の実態を把握することによって、課題を探り、構成的グループ・エンカウンターの実践を通して、個人及び学級集団の変容を促す計画を立てた。

その結果、構成的グループ・エンカウンターが、温かい人間関係を育む学級づくりに有効であることが確認できた。

キーワード □学級経営 □人間関係 □構成的グループ・エンカウンター □教育相談

I テーマ設定の理由

教育の目標を「豊かな人間性の育成」と捉えるとき、精神的な条件整備という面での学級経営においては、一人ひとりの自己実現の援助が大きな目標になると考える。

児童にとって、学級が「安心して自己実現ができる場所」になるためには、教師と児童及び児童相互の間に温かい人間関係が育まれていることが必要であろう。

かつて、子ども達は、兄弟との関わりや地域の子ども集団での遊び等の体験を通して、他人の心や体を傷つけることを言ったり、やったりしてはいけないことを学んだ。そして、自分以外の人間との関わり方も学んだ。

しかし、最近、他人との人間関係をつくるのが苦手で、自分の欲求や要求をうまく自制したり、表現したりすることができず、不登校になってしまったり、自分と考えや性格が合わない者を排斥しようとしたり、攻撃的な関わりをとることによって、自分の立場を守ろうとする子ども達が増えてきたように思う。

そこで、開発的教育相談の一方法である構成的グループ・エンカウンターを学級経営の中に取り入れ、「相手の気持ちを考えよう」と言葉で語りかけるこ

とと並行して、人との関わり方を体験を通して学ばせることによって、学級の中に温かい人間関係を育みたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

一人ひとりの自己実現を援助する温かい人間関係を育むために、人間関係づくりの能力を開発する構成的グループ・エンカウンターを学級づくりの中に取り入れる方法を研究する。

III 研究仮説

1 基本仮説

ソシオメトリック・テストを活用し、学級の課題に応じた構成的グループ・エンカウンターを計画的に実践することにより、温かい人間関係を育む学級づくりができるであろう。

2 作業仮説

仮説1 ソシオメトリック・テストとアンケートを実施し、分析することにより、学級内の人間関係の現状把握が深まるであろう。

仮説2 調査結果を考察することで、温かい人間関係を育む学級づくりの課題が明らかになり、支援の方向づけができるであろう。

仮説3 課題解決のために有効なねらいを持った構成的グループ・エンカウンターを学級の実態に合わせてアレンジして、計画的に行うことにより、個人及び学級集団に好ましい変容を促すことができるであろう。

仮説4 構成的グループ・エンカウンターの「振り返りカード」を活かして教育相談を行うことにより、個人及び学級集団に好ましい変容を促すことができるであろう。

IV 研究内容

1 学級経営と温かい人間関係

(1) 学級経営とは

学級経営とは、子供たちの学校生活を充実させ、教育指導を効果的に行うための全ての教育活動・教育的配慮・条件整備等の営みである。学級を望ましい生活集団・学習集団として育成し、児童の豊かな人間性育成の実現を目指す学級担任の日々の実践が、すなわち学級経営なのである。

学級経営の領域・内容

- (1) 基本的事項……………学級目標の設定、子どもの実態把握
学級経営計画の作成、学級の諸活動、係活動の組織
学級経営の評価と改善など。
- (2) 指導領域的事項……………学級における教科、道徳、特別活動の効果的な指導・運営
日常生活の指導など。
- (3) 個と集団指導的事項…集団内における個の把握と援助、教師と子供の人間関係、
学級集団作り、生徒指導、教育相談など。
- (4) 経営条件的事項……………教室経営、学級事務、
学校・学年経営との連携、父母・地域との連携など。
- (5) 重点的事項……………その学級で特に力を入れて指導している内容、あるいは特色のある活動など。

(2) 学級経営における温かい人間関係の必要性

『児童の理解と指導』（文部省）の最初のページには、「学校教育は、一人一人の児童をして、その能力・適正、興味・関心などに即して、個人のもつ可能性を最大限に伸ばさせるとともに、発達段階に応じて、自己実現を図ることのできる資質や態度を育成することである」と書かれており、さらに、第16回中央教育審議会答申においても「ゆとりある学校生活で子供たちの自己実現を図ろう」との方針が打ち出されている。

児童の自己実現を援助するためには、マスローの指摘する四つの基本的欲求をまず満たすことが必要不可欠である。

なぜなら、これらの基本的欲求が十分に満たされることによって、初めて、自己実現欲求が生まれるからである。

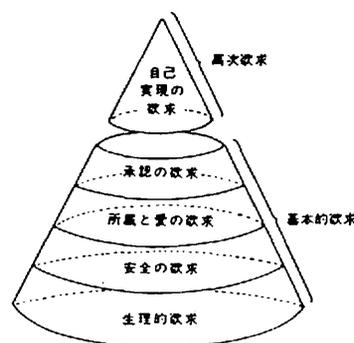
従って、学級経営の精神的な条件整備という面においては、一人ひとりが友達と協力し合いながら、自分を発揮することが認められ、大事にされる、支持的・受容的な学級の雰囲気づくりが大切であり、そのためには、教師と児童、及び児童相互の温かい

人間関係づくりが必要なのである。

本研究では、温かい人間関係を次のようにとらえて、研究を進めていくことにする。

温かい人間関係

- ・お互いに尊重し合い、助け合う関係
- ・お互いに相手を肯定的に受け入れる関係
- ・個性を認め合い、正しい自己主張ができる関係
- ・対立があっても、建設的に解決できる関係
- ・安心して自分の可能性を最大限に発揮できる関係



2 温かい人間関係をつくる教師の基本姿勢

(1) 教師自身

- ・自分の気持ちに気づき、それをありのままに認め、受け入れる。
- ・喜びや感謝などの肯定的な気持ちも、悲しみや怒りなどの否定的な気持ちも、伝え合い、分かち合う。
- ・一人ひとりの子どもの存在の重さ、かけがえのなさ、命の大切さを実感し、ひとりの人間として尊重する。
- ・人間の中にある「成長へと向かう欲求や力」を信頼する。
- ・相手の世界をよく知り、共感的に感じ取ることによって、人間の内部にある「成長へと向かう力」を引き出す。
- ・人間の否定的な感情の中に潜んでいる肯定的な欲求を探すことのできる分析力・洞察力を身に付ける。
- ・子どもを見ると、良いところは○○、課題は○○と見て、その課題解決のために必要な支援を行う。
- ・学習と体験に基づいた自分なりの哲学を持ち、必要ときには、きちんと自己主張していく。
- ・自分の気持ちや考え方をはっきり相手に伝えると共に、相手の気持ちや考え方も理解し、受容するように努める。
- ・叱るだけでない厳しさと甘やかすだけでない優しさの両方を併せ持つ。

(2) 児童に対して

- ・ねらいを明確に持って、体験学習を行い、体験を通して学ばせる。
- ・児童が、自己について学び、人間について学ぶ場を用意する。
- ・児童が、人間関係の持ち方を学ぶ場を用意する。
- ・授業を通して、児童が向かい合い、話し合い、一緒に学び合う機会をできるだけ多くつくる。
- ・児童がルールの必要性を理解し、ルール作りに参加し、自ら守ろうとするように援助する。
- ・一人ひとりに違いがある事を認め、違いがあるもの同士が協力し合って生きていくことの素晴らしさを教える。
- ・日常生活の様々な場面や教育相談を通して、児童の自己実現を援助する。

3 人間関係づくりの体験学習

『構成的グループ・エンカウンター』

(1) 開発的教育相談と構成的グループ・エンカウンター

開発的教育相談とは、全ての子ども達を対象とした教育相談であり、全ての子ども達が、より良い人格の形成を目指し、健全な生活ができるように、学校生活におけるいろいろな場面で、積極的に指導・援助する教育相談である。

今、この開発的教育相談が重要視される背景には、不登校・いじめなどという子供の深刻な問題があるということや、新しい学力観のいう個性を伸ばすこと、子供のよさを認め励ますこ

となど通じるものがあり、さらには、中央教育審議会答申のいう「生きる力」を育むことにもつながるからである。

開発的教育相談におけるグループを活用したカウンセリングの一方法として、構成的グループ・エンカウンターがある。

(2) 構成的グループ・エンカウンターとは

構成的グループ・エンカウンターは、「人間関係づくりの体験学習」ともいわれており、各種のエクササイズを遂行しながら、心と心のふれあいを深め、人と人との温かい人間関係のもち方を学習することによって、お互いを知り合うと共に、自己の成長を図ることをねらいとしている。

構成的グループ・エンカウンターには、「エクササイズ」と「シェアリング」という二本の柱がある。

「エクササイズ」とは、教師の考えるねらいを達成するために用意された課題のことである。ねらいを達成する為に、折衷的にカウンセリングの諸理論が使われていて、ねらいがどの程度達成されているかも知ることができる。

「シェアリング」とは、分かち合いや振り返りのことで、エクササイズを振り返ることによって、そこでの気づきや感情を明確化し、ねらいを定着させる働きを持っている。一方では、エクササイズでの一人の生徒の気づきや感情を全員が共有する働きもある。

(3) 構成的グループ・エンカウンターへの期待

- ・子どもの自己実現を援助するために、教師がねらいを明確に持って行うことにより、子どもが体験を通して自ら学んでいくようになる。
- ・集団との関わりの中で、一人ひとりを育てていくことができる。
- ・思いやりや気配りや自己主張能力を育み、不登校やいじめの発生しにくい学級づくりに役立つ。
- ・集団のなかで、自分を表現し、他との関係をつくっていくというコミュニケーション能力を高めるのに役立つ。
- ・生きる力、問題を解決する力の基礎となる、温

かい人間関係づくりに役立つ。

- ・自他の感情に気づき、「みんなちがってみんない」と心から受容できるようになる。
- ・自己に対して、肯定的な感情・評価を持つようになる。
- ・エクササイズの指示を通して、教師の自己主張能力を高める。

V 指導の実際

1 題材名 仲間っていいな

2 指導目標

構成的グループ・エンカウンター体験を通して、より多くの友達と声をかけ合い、ふれあうことによって、学級の中に温かい人間関係を育む。

3 題材について

(1) 題材観

三年生は、発達段階的に見て、「依存」に比重のかかる年齢の最後の時期である。「依存」することで充電して、「自立」への準備を行っているのである。社会性の発達においては、自己中心性を持ちつつも、他者や外界に心が開くようになる段階であり、他者との交わりに若干の不安を持ちつつも、たくさんの友達がほしい時期だと言われている。

一方、教育相談の専門家によれば、不登校やいじめの問題は、仲間との関わり方を身につけていないことに由来していることが多いとのことである。

以上のことから、この発達段階の子ども達に、人との関わり方を学ばせていくことは、とても重要な課題であると考え。また、本学級の実態を見ても、意識的に仲間との関わりをつくっていくことの必要性を感じる。

この課題を解決するため、楽しい雰囲気の中で、「自己理解」や「他者理解」「信頼体験」等のねらいを持ち、遊びの要素を含んだ、構成的グループ・エンカウンターエクササイズを体験することを通して、仲間と関わることの喜びを味わわせ、本研究テーマである「温かい人間関係を育む学級づくり」に迫りたいと考え、

本題材「仲間っていいな」を設定した。

(2) 友人関係の実態調査

本学級を対象にして、ソシオメトリック・テストとアンケート調査を行った結果、友人関係における下記の実態がうかびあがってきた。

- ・クラスの友達に気軽に話せない子が、約3分の1いる。
- ・クラスの人達が助け合っていると考えていない子が、約3分の1いる。
- ・クラスの男女が仲よしだと思わない子が、半数以上いる。
- ・男子が、1つの下位集団と5人の周辺児、1人の孤立児に分かれている。
- ・女子は、3つの下位集団と3人の周辺児、1人の孤立児に分かれている。
- ・女子のうち3人が男子全員を排斥し、男子のうち1人が女子全員を排斥している。
- ・孤立児P男は、「いじわるをする」「文句を言う」「なかす」等の理由で、20人から排斥されている。
- ・孤立児N女は、誰からも選択されていない。
- ・2人の孤立児の社会的原子図における現われ方は異なっているが、孤立の大きな原因は、同じく、人との関わり方の拙さにあるように思われる。

以上の実態から、教師は、児童が集団の中で自分の居場所を見つけ、自己主張しながら、相手も認めることのできる温かい人間関係をつくることできるように、意識的に支援をする必要があると考える。

4 検証指導の実際

| 仲 間 っ て い い な | |
|--|--------|
| 第 一 時 | 聖 徳 |
| | 太 |
| ねらい：信頼体験 | |
| 一人ではできないことも何人かで協力すればできる、ということを経験しながら新しい人間関係をつくる。 | |
| 内 容 | |
| ・4人グループを作る。 | |

(3) 温かい人間関係づくりの課題

課題1 孤立した児童への人間関係づくりの支援

課題2 人との関わり方を学ばせ、学級内の人間関係の輪を広げていく中で、男女間の溝も小さくしていく。

課題3 誰でも気軽に自分の思いが話せるように、受容的雰囲気を作る。

(4) 課題解決のための実践方法

上記の課題を解決するのに、有効なねらいを持った構成的グループ・エンカウンター演習を選び、学級の実態に合わせてアレンジし、計画的に実践するとともに教育相談を行う。

期間—1998年5月～7月

対象—小学校3年生29名(男16名 女13名)

回数—6回 各45分

効果の測定—ソシオメトリック・テスト、アンケート、各回ごとの振り返りカード

(5) 支援目標

- * 孤立した児童に、人との関わり方の学びの支援をする。
- * 男女が混ざった形に集団の輪が広がっていくように支援する。
- * 誰でも気軽に話せるような受容的雰囲気づくりができるように支援する。
- * 一人ひとりの個性を尊重し、肯定的な評価を行うことによって、自尊感情が高まるように支援する。

- ・1つのグループが前に出て、1つの単語の音を一人ひとりが一音ずつ分担し、一斉に言う。
- ・それを聞いて、他のグループが何の言葉か当てる。
- ・言う役と聞く役を交代して行う。
- ・振り返りカードを書く。
- ・今、思っていることを発表する。

結果

課題1, 2を解決するため、ソシオメトリック・テストを基にして編成したグループで行った。一人ではできないこともグループで協力すればできるという体験を楽しみながら、和気あいあいと活動していた。周辺児や孤立児としてあがっていた子ども達もグループの中で生き生きと活動していたので、ねらいは達成できたと思う。ただ、P男は、教師に報告しに行く役を他の人に代わらず、独り占めしようとして他の班員ともめていたため、教師が「報告する役は、どうする約束だった？」とルールの確認をする声かけを行い、自分の行動を振り返らせる支援を行った。

かんそう
 こんな音がいい人っていったんだね。
 私、みんなが「ぎゃ〜ぎゃ〜」といっていると思
 ったから、似た「けた」からでてると思ってわ
 たらとてもたのしかった。

かんそう
 わたしがしょうとくたいしゲームをやって楽
 しかったことはみんなであてたりして、言
 びに行くことです。
 2番めにたのしかったことはほんで大きな
 こえでいったことです。
 またやりたいなー。と思いました。

第
ガ
ジ
二
ユ
マ
時
ル

ねらい：信頼体験 課題2の解決

男女を問わず力を合わせることの良さがわかる。

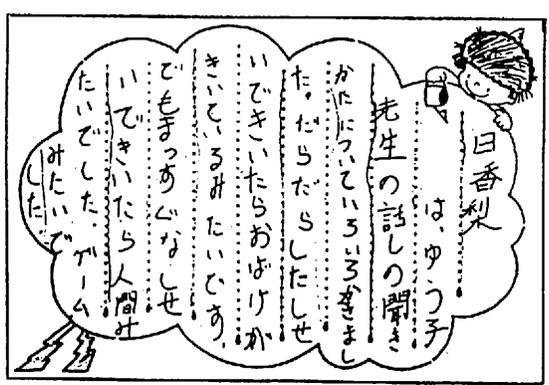
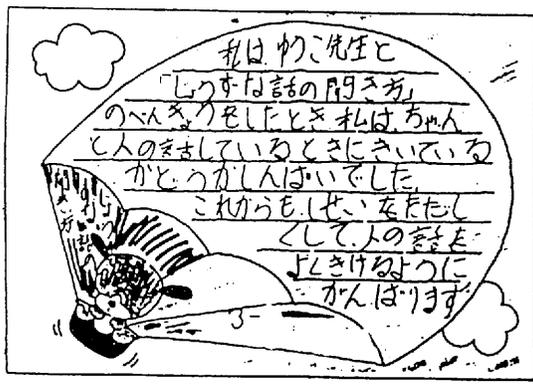
心が一つになると成功するという実感を味わうことで、仲間への信頼感を強める。

内容

- ・5人グループを作る。
- ・各班、工夫して全員で一つの椅子にのる。
- ・最後の人が椅子にのってから、30秒間、声を出して数える。
- ・30秒後に、全員が椅子の上のつたままの状態でいられた班は合格となる。
- ・振り返りカードを書く。
- ・今、思っていることを発表する。



て、これからの自分の行動のめあてを持たせた。上手な話の聞き方のルールは、教室に掲示するとともに国語の教科書にも貼り付け、常に、相手を受容する気持ちで話を聞くということを意識させるようにした。男子は、下手な聞き方の時は特に張り切り、楽しみながら伸び伸びと活動していた。活動後に行った、話している時の気持ちの振り返りで出た子ども達の発表からは、「下手な聞き方をされるととても嫌な気持ちになるが、上手な聞き方をされると嬉しくてもっと話したくなる。」ということが、どの子にも実感として捉えられた様子が伺えた。



第
四
時
私
の
願
い

ねらい：自己理解 他者理解 課題3の解決

どんな人になりたいかという自分の願いとこれからの行動のめあてを持つ。友達の願いを知る。

- 内 容**
- ・自分はどんな人間になりたいか考え、4つの部屋の中で一番近い所を選んで移動する。
 - ・同じ部屋の人達とインタビューし合う。
 - ・どんな人と友達になりたいか、選んで移動する。
 - ・現在の自分自身を振り返って、近いなと思う部屋に移動する。
 - ・自分のことや友達のこと気づいたことを話し合う。
 - ・振り返りカードを書く。

結 果

同じ願いを持った子どもどうして話し合ったり、みんなに自分の思いを発表したり、友達の願いを聞いたりする中で、子ども達は社会的欲求を満足させていた。しかし、4つの部屋に限定されているため自分の願いと合わず、新しい部屋を要求してくる子もいたので、もう少し内容についての検討を行う必要がある。導入段階で第3時の振り返りを行い、上手な話の聞き方のルールを確認したにもかかわらず、友達の発表のじゃまをする子がいたので、その場でルール違反を指摘し、後で個人的に話し合いを持った。

わたしはこれから、お友達たちにやさしくするためにがんばりたいです。
たまに、いじわるを少しすることがあるが、きおつけたいです。

わたしはときどききょうたいけんがするからやさしい人になりたいです。
わたしは、ほんとうはときもくまさんがいたのでいいかでした。
このでんきょうはとてまのしなただです。
またやりたいたま
これかろ、やさしい人とお友達にたいたいです。



第 五 時 間
公 開 検 証 授 業

ねらい：信頼体験 課題1, 2, 3の解決

感謝する気持ちや助け合いの気持ちを培う。
友達との交流の輪を広げ、楽しく活動させる。

内 容

- ・鬼を決める。
- ・鬼以外の児童は、お助けカードを持って逃げる。
- ・鬼にタッチされて凍ったら、手を挙げて助けを呼ぶ。
- ・助けるときは、お助けカードを渡す。
- ・ベルの合図で終了し、自分の持っているカードの枚数を数える。
- ・教師の評価を聞く。
- ・目をつぶり、自分の鼓動を感じ取り、感じたことを発表する。
- ・振り返りカードを書く。
- ・今、思っていることを発表し合い、気持ちを分かち合う。



結 果

数日前の体育の時間に、10分間、担任と私も加わり「氷鬼」をしたところ、子ども達は終了のベルが鳴っても続けることを要求し、次の時間の開始5分前まで行った。その時の子ども達の反応から、要求を少し高くしても大丈夫だと判断し、「タッチして助ける」→「カードを渡して助ける」、「捕まったら、そのままの状態で静止」→「その場を動かずに、手を挙げて助けを呼ぶ」、「男子は女子を、女子は男子を助ける」→「男子は手持ちのピンクのカードを、女子は水色のカードをなるべく少なくする」、「助けてもらったお礼を言ってカードを返す」とルールを変更した。

子ども達は、助けたり助けられたりの関係を楽しみ、友達との交流の輪を広げながら、楽しく活動していた。また、振り返りの時には、全員が自分の思いを発表することができた。振り返りの発表の中で、気になる発表をした子については、後日、教育相談を行い、現在、担任が見守っている。

教師の指示、支援の仕方や話の聞かせ方などが、課題として残った授業であった。

ふりかえりカード

仲間、いいな 名前 _____

1. このべんきょうは、たのしかったですか？
(たのしかったです) ぶつ たいせつなりました
2. あなたは、お友達と助けられましたか？
(助けられました) ぶつ 助けられました
3. お友達には、あなたと助けられましたか？
(助けられました) ぶつ 助けられました
4. このクラスは、どんなクラスですか？
(あ)のいいクラス
5. 今の気持ち、かましよう。
(か)うれしかったこと、かうれしかったこと、思ったことなど)

私は泳がなくて、男の子も女子もたすけて助けてくれる人ばあと思えます。
私のおには、たすけてあげてくれたりもしました。
またやりたいたす。

わたしは4人の人をたすけました。
おには大きくはるのがはやくたすけて
いらは、いっかまりました。
け水色いらは、いの人にたすけてもらたの
でうれしかったです。
またやりたいたす。

あー、いまにおねたけいこ。でも、
おもしろかったです。
おにいさんたりにげたり、たすけられ
たり、たすけたりしました。
カードもいっぱいおねたけいこ。
つきま、いとこや、おねたけいこ、
おねたけいこやうたいです。

ぼくは、まふたすけられました。
14、こんごは、男の子をたすけられ
た。
けいこさんおのこがたすけられ
た。こころをいっくらたすけました。
でもほんごは、たすけられつた。!!
わあ、いっくらたすけられた。
おねたけいこからです。

第
六
時

ねらい：自己理解・他者理解・自己受容 課題1, 2, 3の解決

い 自分や友達の良さを見つけて伝えてあげる。

い 友達が見つけてくれた自分の良さを知り、受け入れられることの喜びを味わう。

こ
ろ
見
つ
け
た

内 容

- ・自分のいいところを見つけて、メッセージを書く。
- ・友達のいいところを見つけて、メッセージを書く。
- ・みんなからももらったメッセージを読む。
- ・もらったメッセージを台紙に貼り、今の自分の気持ちを書く。
- ・みんなのものを掲示して、お互いに読み合う。



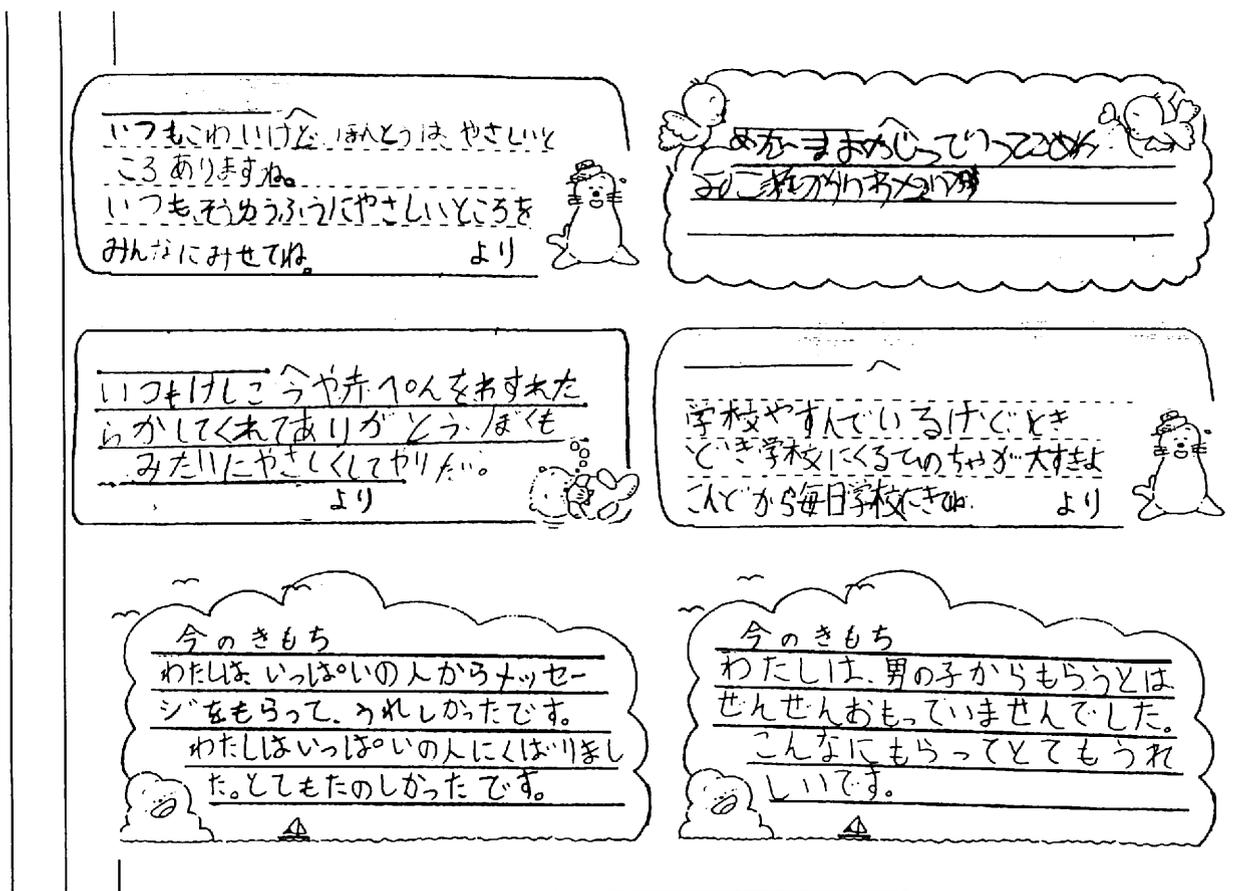
結 果

子ども達は、照れながら、自分のいいところ、頑張っているところを見つめ、自分自身に対するメッセージを書いた。そして、班の人のいいところを見つけ、メッセージを書いて手渡した。その後、余分に用意してあった紙を取って、誰にでも自由に書いてよいというと、喜んでたくさんの人にメッセージを書き、給食準備時間になっても、なかなか手を止めなかった。教師に何度かせかされて、やっと給食当番が重い腰を上げるという状態だった子ども達。

友達からももらったメッセージを読んでいるときの子ども達の笑顔は、とてもすてきだった。クラスみんなに出すと言って張り切ってメッセージを書いている子、男子から女子へ、女子から男子へのメッセージ、「優しいところをもっとみんなに見せてあげて」等のやんわりとした要求、いじわるしたことを謝る言葉等、微笑ましい場面がたくさん見られた。

教師のところにもメッセージが届いたときには、期せずして、メッセージを受け取る子どもの嬉しさに心から共感することができた。自分がもらったメッセージを大切に台紙に貼っている子ども達の姿や「今の気持ち」の欄に書かれた言葉からは、承認欲求が満たされた満足感が伺えた。

また、一人ひとりに届けられたメッセージを読んでいると、子ども達の優しさが伝わり、子ども達への「温かい心」が湧き出てきたことを考えると、教師の成長にとっても大切なものであったと思う。



5 公開検証授業

(1) 目標

感謝する気持ちや助け合いの気持ちを培う。
友達との交流の輪を広げ、楽しく活動させる。

(2) 授業仮説

遊びの要素が多く、動きのあるエクササイズ「こおりおに」を通して、より多くの友達と声をかけ合い、ふれあうことによって、学級内の人間関係をより深めることができるであろう。

(3) 授業の展開

| 過程 | 場面 | 児童の活動 | 教師の活動と主な発問 | 主な支援と留意点 |
|----------|-----------|----------------------------------|---|---|
| 導入 8分 | ウォーミングアップ | ・「じゃんけん列車」のゲームをする。 | ・ウォーミングアップをさせる。 「準備運動で、じゃんけん列車をします。途中で脱線しないように、しっかりつながっていきましょうね。」 | ・リラックスした雰囲気作りをする。 *孤立児、周辺児への配慮をする。 ・児童がのりやすいように音楽を準備し、明るいトーンで接する。 |
| | エクササイズの説明 | ・今日の学習のめあてを知る。 ・学習の流れを知る。 | ・今日の学習のめあてを知らせる。 「今日の学習のめあては、すすんでたくさんの友だちを助けようです。」 ・学習の流れを説明する。 | ・筆記用具とお助けカードは、班ごとにかごに入れておく。 |
| | | ① 1回戦目の「こおりお | ① 1回戦目の「こおりおに」 | ・ルールをしっかり聞かせ |

| | | | | |
|-------------------|------------------|--|--|---|
| <p>展開 20分</p> | <p>エクササイズの実施</p> | <p>に」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お助けカードを持って、元気に逃げ回る。 ・鬼にタッチされて凍ったら、手を挙げて助けを呼ぶ。 ・助けるときは、凍っている人に、「はい」と言って、お助けカードを渡す。(男子には水色、女子にはピンクを渡す。) <p>②ベルの合図で終了して集合する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの枚数を数える。 ・挙手で自分の持っている枚数を知らせる。 ・教師の評価を聞く。 <p>・助けてくれた人に、お礼を言って、カードを返す。</p> <p>③2回戦をする。</p> <p>④ベルの合図で終了して集合する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの枚数を数える。 ・挙手をして枚数を知らせる。 ・お礼を言ってカードを返す。 ・筆箱を持って集合する。 | <p>をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ゲーム5分程度とする。(様子を見て増減する) ・鬼は男女混合の7名程度とする。(様子を見て増減する) ・鬼は赤帽子をかぶる。 <p>②1回戦目を終了して、集合させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの枚数を数えさせる。 ・挙手で枚数の確認をする。 ・カードの枚数を基にして、評価をする。 「10枚より少なかった人は、たくさんの友達を助けてあげたんだね。お助けマンだ!」 「10枚より多かった人。みんなの親切を多く受け取ることができたんだね。よかったね。」 「最初と枚数があまり変わらなかった人。上手に逃げることができたのかな。それとも友達も助けたし、みんなの親切も同じだけ受けることができたのかな。これも両方の気持ちを味わうことができて、とってもいい経験をしましたね。」 ・助けてくれた人にカードを返させる。 <p>③2回戦を開始する。</p> <p>「2回戦はちょっとレベルアップして、めあてを2ついます。</p> <p>1つは、なるべく多くのカードを渡すこと。</p> <p>2つめは、男子はピンクのカードをなるべく少なくすること。女子は水色のカードをなるべく少なくすることです。</p> <p>④2回戦を終了して集合させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けてくれた人にカードを返して集合させる。 「では、助けてもらった人に、しっかりとお礼を言ってカードを返してください。その後、筆箱を取って、今の場所にすわってくださいね。」 | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> *男女の関わりや、普段あまり親しくない子との関わりができるように支援する。 *孤立児、周辺児が、たくさんお助けカードを使えるように支援する。 *一人ひとりの個性を尊重し、肯定的な評価を行うことによって、自尊感情が高まるように支援する。 *感謝の気持ちを言葉や態度で表現できるようにさせる。 *1回戦目は、逃げ回るだけだった子も積極的に助けにいけるように支援する。 |
|-------------------|------------------|--|--|---|

| | | | | |
|-------------------|--------------|---|--|---|
| 終 末 17 分 | 振り 返 り | ⑤目をつぶり、自分の鼓動を感じ取り、感じたことを発表する。 | ⑤目をつぶり、自分の鼓動を感じさせ、感じたことを発表させる。 「目をつぶって！・・・自分の手を手首や首、胸などに当てて心臓の音をしばらく聞いてみてください。」 「どんな感じがした？」 「みんな素敵なことを感じていますね。」 | 一人ひとりの感じ方や思い、気持ちを分かち合うことによって、感情の相互交流を図る。 *受容的な雰囲気を作り、誰でも気軽に話せるように支援する。 |
| | | ⑥振り返りカードを書く。 | ⑥振り返りカードを配り、書かせる。 | |
| | | ⑦「こおりおに」をやっ て、感じたこと、考えた ことを発表し合い、気持 ちを分かち合う。 | ⑦振り返りカードに書いたこ とを発表させる。 | |
| | まとめ | | ⑧児童の活動や発表から感じ たことを話す。 | |

(4) 評価

- *感謝する気持ちや助け合いの気持ちを培うことができたか。
- *友達との交流の輪を広げ、楽しく活動させることができたか。

(5) 検証授業の反省 (授業後の話し合いの記録より)

- ・男女が積極的に助け合っている場面や、友達と楽しく交流している場面が見られたので、ねらいはかなり達成されたように思う。
- ・感謝する気持ちや助け合う気持ちを培う面で、お助けカードの使用はよかった。
- ・振り返りの発表を全員にさせたのはよかった。
- ・レク的なものは、のせるのが難しいが、子供たちがよくのって動いていた。
- ・暑い体育館という難しい環境の中での、動と静を取り入れた授業であったにもかかわらず子供たちはよくがんばっていた。
- ・聞く態度ができていて、ルールの把握がもったときちんとできていたら、授業がもっと深まったと思う。ルールを紙に書いて貼ったり、簡単にしたりすること等も考えた方がよい。
- ・場に応じた適切な発問、指示、支援の力を付けたい。
- ・今日の実践で新しく見えた課題は、各教科、道徳、特活、教育相談等、日常生活のいろいろな場面を通してフォローしていきたい。
- ・エクササイズに時間がかかるものは、不消化のまま切り上げると振り返りがうまくいかないで、エクササイズと振り返りを分けて、帰りの会などで行うこともある。
- ・子供の目の高さにしゃがむ、スキンシップをする、学習がスムーズに進むように細かい配慮をしているという面から、子供に対する愛情が感じられる。
- ・人間関係をよくしていくことをベースにして、その下地ができた段階で特活が始まるのが効果的である。次の段階では、スポーツ大会や多学年との交流会等が考えられる。
- ・人命尊重と親への尊敬という面からも性教育の大切さを感じる。
- ・孤立児にいい意味で目を向けさせる方法も工夫する必要がある。

2 抽出児の変容について

P男について

地位指数が0.315 (-0.304→0.011) ポイント上昇。
 N男と相互選択があり、A女、M女から選択されている。第1回ソシオメトリック・テストでは、男子全員が嫌と答えていた女子3人を合わせると、何と20人から排斥を受けていたが、第2回ソシオメトリック・テストでは8人に減っている。授業の際も、たまに注意されることはあったが、とてもいい表情で参加している姿がたくさん見られた。

第6次の「いいところ見つけた」では、一生懸命皆にメッセージを書き、たくさんのメッセージをもらってとても嬉しそうであった。

4月当初に比べると友達とのかかわり方がずいぶんよくなってきているが、まだ、自分のわがままを押さえきれない面や、自分と気が合わない子に対しては乱暴な行動をとる面、感情の起伏が激しい面等が時々見られる。担任が家庭と連携を取りながら、温かく見守っている。

N女について

地位指数が0.254 (-0.018→0.236) ポイント上昇。
 第1回ソシオメトリック・テストでは、誰からも選択がなく、一人から排斥を受けていたので、とても気になる存在であったが、第2回ソシオメトリック・テストでは、E女・L女と相互選択の関係ができた。学級の雰囲気になれ、自分らしさを発揮できるようになったことと、放課後の部活に入り、友人関係が広がったことも大きく影響しているように思われる。振り返りカードにも素直に自分の思いを書き、皆の前で発表していた。

P男の社会的原子図

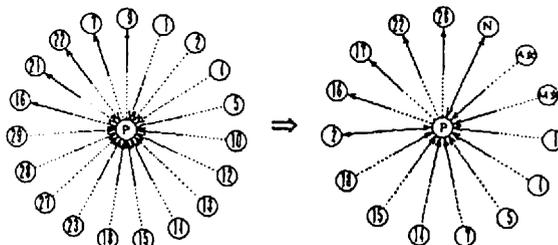
| | | | |
|------|---|------|----|
| 相互選択 | 0 | 相互排斥 | 0 |
| 被選択 | 0 | 被排斥 | 17 |
| 選択 | 5 | 排斥 | 0 |

地位指数(Isss) = -0.304

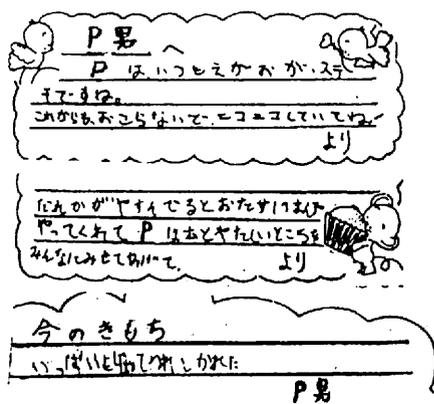


| | | | |
|------|---|------|---|
| 相互選択 | 1 | 相互排斥 | 0 |
| 被選択 | 3 | 被排斥 | 8 |
| 選択 | 5 | 排斥 | 1 |

地位指数(Isss) = 0.011



← 相互選択 ← 相互排斥 → 選択 → 排斥



N女の社会的原子図

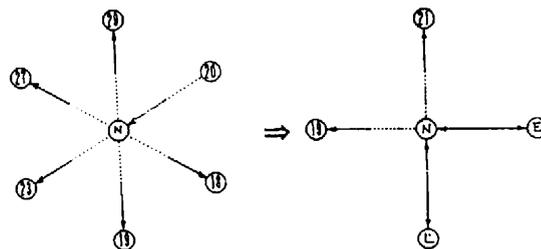
| | | | |
|------|---|------|---|
| 相互選択 | 0 | 相互排斥 | 0 |
| 被選択 | 0 | 被排斥 | 1 |
| 選択 | 5 | 排斥 | 0 |

地位指数(Isss) = -0.018



| | | | |
|------|---|------|---|
| 相互選択 | 2 | 相互排斥 | 0 |
| 被選択 | 2 | 被排斥 | 0 |
| 選択 | 4 | 排斥 | 0 |

地位指数(Isss) = 0.236



← 相互選択 ← 相互排斥 → 選択 → 排斥

ふりかえりカード

仲間、いいな 君 N女

5. 今のきもちを かきましょう。
 (か:うれしかったこと、かたがたしたこと、思ったことなど)
 あなたは、おにたつかまをたけど、
 たすけがたがうれしからたです。

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

温かい人間関係を育む学級づくりに、構成的グループ・エンカウンターの実践が有効であることがわかった。

【仮説1について】

- ・ソシオメトリック・テストを活用した客観的な実態把握により児童理解が深まった。
- ・ソシオメトリック・テストを再度実施し比較分析を行うことは、児童の変容を捉えるのに有効である。

【仮説2について】

- ・ソシオメトリック・テストの結果を分析し、学級の課題を明確にすることにより、具体的な指導・支援の方法を考えることができた。

【仮説3について】

- ・課題の解決をねらいとした構成的グループ・エンカウンターの実践を通して、個人・学級集団に好ましい変容を促すことができた。

【仮説4について】

- ・振り返りカードを活かして、教育相談を行うことにより、個人・学級集団に好ましい変容を促すことができた。

【その他】

- ・「振り返り」での自分の思いの発表を全員が重ねる事により、自分に自信がつき、自己実現欲求も満たされたように思う。

2 今後の課題

- ・開発的教育相談を中心に据えた、学級経営年間計画の作成。
- ・構成的グループ・エンカウンターを教育課程との関連の仲で実践するための方法の研究。
- ・学年全体の人間関係づくりをねらいとした構成的グループ・エンカウンターの研究。
- ・的確な状況判断力と的確な指示・支援を行うための学習。
- ・学校教育相談や心理教育についての学習。
- ・様々な体験や学習を通して、人間性を深め、自分なりのしっかりとした教育哲学を持つ。

おわりに

この6ヶ月間、とても有意義な時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。研究所でのたくさんの収穫を今後の教育実践に役立てていこうと思います。

研究を進めるに当たり、懇切丁寧にご指導下さり、いつも温かく見守って下さいました新城所長はじめ研究所所員の皆様に深く感謝申し上げます。そして、研究の機会を与えて下さいました神森小校長豊里優先生、浦添市教育委員会及び関係機関の皆様、並びに励ましの言葉をかけて下さった神森小及び同期研究員の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、現場での子ども達への教育実践を通して、御協力頂きました仲村彰子先生に心から御礼申し上げます。

主な引用文献・参考文献

- | | |
|--------------------------|------|
| 田中熊次郎「ソシオメトリー入門」 | 明治図書 |
| 手塚郁恵・刀根良典「学級経営実践マニュアル」 | 小学館 |
| 國分康孝「構成的グループ・エンカウンター」 | 誠心書房 |
| 國分康孝・岡田弘「エンカウンターで学級が変わる」 | 図書文化 |
| 高橋史朗「癒しの教育相談理論」 | 明治図書 |
| 高橋史朗「新学力観を活かす学校教育相談」 | 学事出版 |
| 「児童の理解と指導」 | 文部省 |